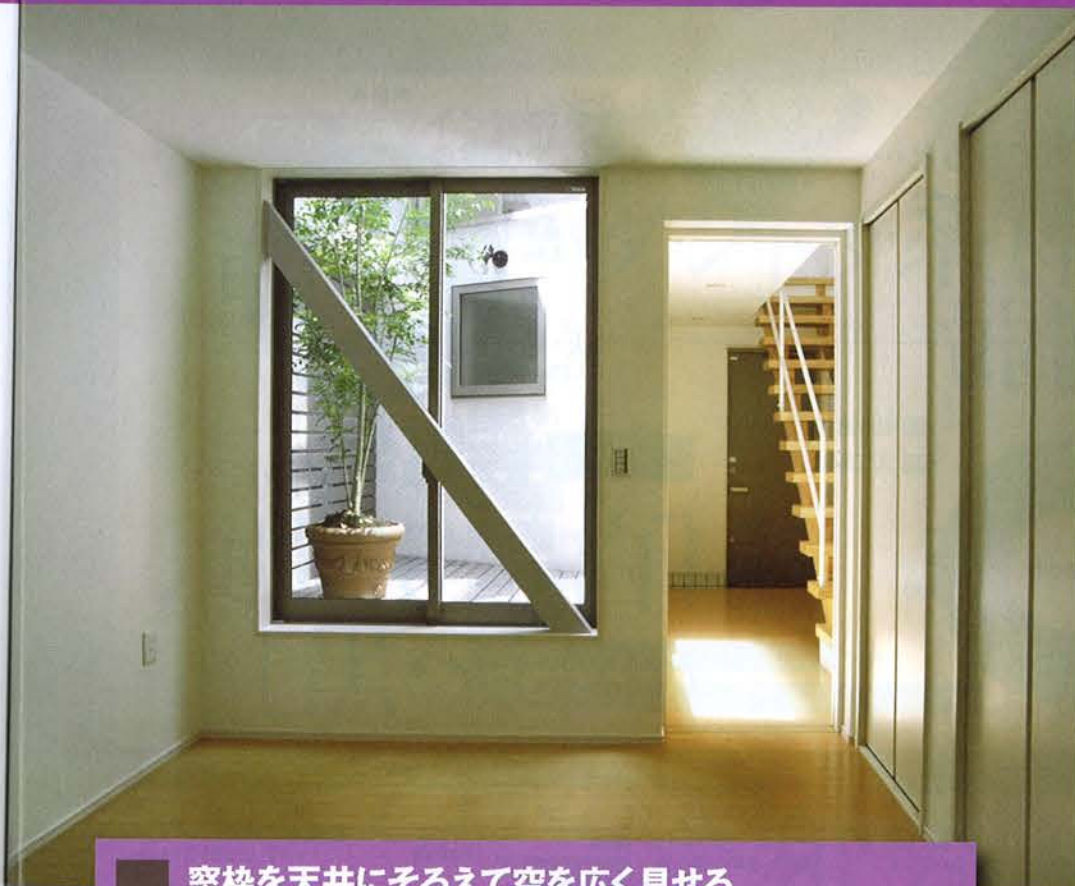


既製品でも
一味違う
デザインに

「そろそろ見える」だけじゃなく「きこえる」

サッシなどの部材のほとんどを既製品にしても、一味違ったデザインにできる——。岡村泰之さん（岡村泰之建築設計事務所代表）が設計した建売住宅を例にして、今日から応用できるデザインのポイントをいくつか、探ってみよう。



窓枠を天井にそろえて空を広く見せる

1階洋室。窓枠を天井にそろえて、窓から外へ抜ける視線が上方へ広がるようにした。右手の室内扉は引き戸で、扉枠が目立たないように白いタイプを採用。収納扉や幅木もそれぞれ既製品。幅木は高さ30mmで、回り縁用の部材を転用した

64ページまでの写真は、2007年に岡村さんが設計を手掛けた建売住宅。まったく同じ設計の3棟を並べて開発した物件だ。まずは上の写真に注目してほしい。1階の洋室で中庭に面した開口部だ。採用したアルミサッシはごく一般的な既製品。窓の上枠を天井にそろえて、床面から腰壁を立ち上げている。

構成要素を減らす

窓の上枠の下面と天井面とを連続するように納めて、ほぼフラットに見えるようにした点が、すっきり感を演出するうえで重要なポイントになっている。線や面、点といった目に見える空間の構成要素を減らした効果、とも言える。こうした箇所は通常ならば、はき出し窓にして、上部に垂れ壁を設けるところだ。この写真のように配置すると、既製品とはいえ、

空間の雰囲気がいぶんと変わる。腰壁があるので落ち着くし、すっきりした開放感も得られる。「窓を通して視線が空に抜けるようにすると開放感が増す。垂れ壁を設けると、視線が遮られるので、サッシを天井付けにして上方への視線を確保した」。岡村さんはこう説明する。

この居室の上にある2階居室の開口部が、63ページの写真だ。1階と同様に、窓の上枠を天井面に合わせている。2階では、開口部の上半分を引き違いの窓に、下半分はガラスをはめ殺しにした。これらも既製品を組み合わせただけ。1階居室とはまた一味違ったデザインにまとまっている。

1階と2階の開口部それぞれに共通する納まりは、63ページの図の通りだ。窓上枠の下面と天井下面との間に5mmのチリを設けたの

特集
デザイン力をつけるには

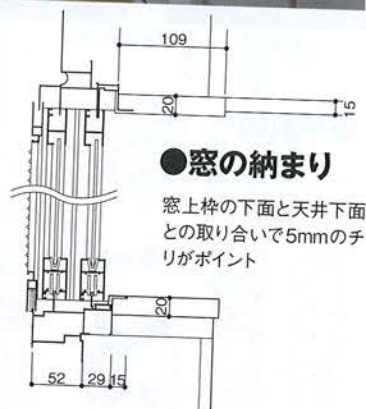
組み合わせサッシで窓の役割を分担

2階洋室。構造上は壁が必要な面だが、筋交いをあらわにしたうえで窓を上下に分割して設置。上半分は引き違い窓で風を、下半分ははめ殺しで光を取り入れるように役割を分けた

(写真：64ページまでmichiho)

天井の照明は一続きに並べるとすっきり見える

2階の階段ホールからLDKを見る。ホールとLDKのダウンライトを一列に配置することも、天井面をシンプルに見せるコツの一つ



は、施工性への配慮だ。「本来は、窓上枠の下面と天井下面とをきっちりそろえたいところだが、施工者にとっては、逃げがなくなる。そろっているように見える範囲で、わずかにチリを設けた（岡村さん）」

現場管理も力キ

空間の構成要素を減らして、そろえる——。こうした工夫はほかにもある。室内の引き戸を枠が白いタイプにしたのは、天井や壁の

色調に合わせることで、枠の存在が目立たなくなる効果を狙った工夫。引き戸と枠も既製品だ。左の写真のように、天井のダウンライトも、階段室からその奥に見えるLDKまで一直線に並ぶように配置すると、すっきり感を演出できる。もちろん、これらのダウンライトも既製品。

「ダウンライトの配置などは図面に書いても、現場任せになりがち。コンセントの位置なども同様だが、いつの間にか、施工しやす

